

## 奈良市内の観光に新スポット 「奈良公園バスターミナル」

県北部、奈良市内の観光シーズンにおける長年の悩みだったのが、奈良公園周辺道路の大渋滞。行楽シーズンには、急増する訪日客を乗せた大型バスに自家用車も殺到し、深刻な交通渋滞が常態化していた。それらを解消する手段の一つとして、大型観光バスの乗降場所になる「奈良公園バスターミナル」が、4月13日に県庁の東にオープンした。

県庁の駐車場だった敷地に総工費約45億円をかけて、地上2階建てのターミナルを建設。3階にあたる屋上には緑地庭園を整備し、ベンチなどが置かれた。

事前予約制で、乗降場所は16カ所設け、1日220台程度の利用を想定する。ターミナルは、東大寺、春日大社、興福寺、奈良国立博物館などと徒歩圏内にあるため、観光客はここで下車し、観光中にバスは、待ち時間に応じて振り分けられた、大和郡山市内と奈良市内の2カ所の駐機場で待機する。

東棟2階の「奈良ストーリー」コーナーでは、観光案内のタッチパネルが置かれ、ガイド本にはない奈良の魅力を知ることが出来る。室内で、観光客が休憩しながら利用できるのは朗報だろう。屋上からは、「世界遺産」の春日山原始林から若草山、東大寺、興福寺等が一望でき、奈良公園周辺で、有数の絶景ビューポイントが誕生している。また、施設にはスターバックスコーヒーや着物レンタル店、奈良の土産物店などが入り、300人収容のレクチャーホールでは、奈良の美しい映像が流されている。

奈良市内の観光における新しいスポットとして認知度が高まり、活用されていくことに期待したい。まずは、「正倉院展」の頃の道路事情がどう変わるか、一つの試金石になりそうだ。

奈良新聞社 編集委員 出版課長 辻 恵介



「奈良公園バスターミナル」の東棟屋上から見たバスの入り口方面(南側)の風景。左手前にバスが止まり、乗客を乗せて、次の目的地に向かう。右手に見えるのが土産物店などが入った西棟の建物。正面に興福寺五重塔を望む